

| | |
|------------------|---|
| Title | 中支考古學調査班松本班報告：(三)南京の再調査 |
| Sub Title | |
| Author | 松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1938 |
| Jtitle | 史学 Vol.17, No.2 (1938. 11) ,p.182(328)- 184(330) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 彙報 支那學術調査團考古學班報告 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19381100-0182 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

文廟祭祀品 二百九十八點
 風俗品 約 八十三點
 古代兵器 約 七點
 階上に

唐代明器

約 三十五點

古代瓦類

約 三十四點

古銅器破片

約 五點

鏡破片

二點

古代兵器

約 三十三點

陶器類

約 三十一點

石 函

一點

石 器

一點

木器類

約 十一點

土俗品

約 十四點

拓本(卷物)

約 三十八點

同 (普通ノモノ)

約 五十枚

書 籍

約 九百冊

を藏す。その中階上の古錢、鏡、玉類、貴重なる磁器類、書畫類、手頃なる明器類は悉く喪失せり。

二、古蕩の發掘調査

尙本調査班は六月十八日より二十一日まで四日間〇〇部隊の許可を受け〇〇部隊〇〇隊、及び〇〇部隊の援助の本に杭州古蕩石虎山なる先史時代遺跡を發掘調査せり。

その結果判明せる事實左の如し

(イ)石虎山には、杭州第一公墓と稱する共同墓地あり、民國二十四年同公墓構築當時多くの石器土器を出だし學界の注意を惹き、支那人は之を以て新石器時代の遺跡とせり。

吾々は公墓の表面採集をなし、石器二個を拾得せり、同地がかゝる石器の出土地なることは明確なるもそれが果して新石器時代のものなるやは未だ判明せず。

(ロ)第一公墓の外側、南の垣に沿へる高さ約三米内外の丘陵に長さ十米幅二米に及ぶトレンチを掘鑿せり。同地層の上部よりは宋元時代の陶磁片、鐵釘、開元通寶などを出だせしが下層よりは支那人が春秋戰國時代の土器と稱する格子紋ある赤色及び灰色土器片を出土せり。然し深度二米九〇センチ邊より以下の赤く硬き小砂礫を含む粘土層よりは土器片一個も出ださず、深さ二米八〇センチ邊より水湧き工作困難なるを以て深さ三米二四の地點に於て發掘を中止せり。なほトレンチの北端に於て埧室を發見し、中より瓦瓶二個、小さき香爐様壺一個、四耳壺一個、玉製品一個、朱片、鐵釘等を發見せり。之を要するに古蕩附近が支那歴代の遺跡に富み今後平和克復後同地方の徹底的考古學的調査の必要あることを痛感せり、なほ本發掘に對し戰時中なるにかゝはらず各部隊の厚意ある援助を得たることは深く感謝に堪えざる所なり。

(三)南京の再調査

駐支派遣軍上海〇〇〇の命により南京の學術標本整理の爲上海自然科學研究所の新城所長以下所員數名と共に七月廿三日南京に出張し、九月七日に及ぶ一月半の勞作により大體左記の仕事完了せり。

一、陶器試験場に於ける殘存考古標本類の中央研究院移送

その點數左の如し、

六朝大石佛の下半身

二石

大石獅子

三

大石狗

二

二、古物保存所に殘せる金石標本類の持ち運び得る一切の中央研究院移送

古物保存所の建物は難民の爲木造部分破壊せられつゝあるをもつて其標本類は血跡石及び明故宮石礎の如き大石を除き之を歴史語言研究所内に移送せり、點數左の如し、

石碑類 廿三

墓誌類 十二

井牀 四

石礎 三

明故宮石柱及び小池石 九

石 一

瓦角 一

大鐵刀 一

大砲 一

計 五十五點

三、殷墟其他遺跡發掘物入木箱の整理

陶器試験場より移入したる木箱及び従前より歴史語言研究所に在りたる、木箱合計七百四十六箱の多數に上れるを三十三種に分類し、一々番號を附し、研究所裏の倉庫及び研究所内の二室に陳列せり、

四、陶器試験所より移入せる金石類の整理

同所より移入せる金石類は歴史語言研究所第一階右翼の大室に陳列し、大なるものは戸外に陳列せり、點數左の如し、

石佛

十九

石佛頭

五

鐵及び銅佛

五

木佛

十六

佛塑像

一

景教刻石

二

石獅子、石狗類

十四

石床、石扉、石柱類

十

石板、磚

六

古代大砲

四

其他

四

計 八十六點

なほ同所より移入せる清朝歷代殿試策の類は之を一括して歴史語言研究所の二階の一室に入れ置きたり。

五、古物保存所より移入せる金石類の整理

同所より移入せる金石類は之を歴史語言研究所第一階右翼の一室

及び左翼一室の一部並びに戶外に陳列せり、その點數左の如し、

| | |
|-----------|-----|
| 石碑類 | 五十二 |
| 墓誌 | 廿四 |
| 井牀 | 八 |
| 鐵鉢 | 一 |
| 大砲 | 一 |
| 鐵刀 | 一 |
| 石礎 | 二 |
| 瓦角 | 一 |
| 明宮小石池及び石柱 | 九 |
| 其他 | 八 |
| 計 | 百七點 |

此等の標本は陶器試験所の金石類と共に全部主要なるものを撮影し拓本せり。

六、古物保存所より移入せる古瓦類の整理

古瓦類は之を歴史語言研究所二階右翼の一室に集め分類せり、その點數大約左の如し、

| | |
|----------|----|
| 漢紀年磚 | 十二 |
| 三國 同 | 四 |
| 晉 同 | 十 |
| 宋齊、梁、陳 同 | 十三 |
| 唐墓誌及び方磚 | 三 |
| 南唐有字磚 | 一 |

| | |
|-------------|---------|
| 宋紀年磚 | 二 |
| 宋有字磚 | 九 |
| 元有字磚 | 二 |
| 吳倉磚 | 三十六 |
| 六朝有字、有紋、無紋磚 | 八十四 |
| 明有字磚 | 六 |
| 明琉璃磚 | 二百十四 |
| 明報恩寺甃磚 | 十一 |
| 明城磚 | 四十六 |
| 明貢院號舍號磚斷片 | 七 |
| 計 | 約四百六十四點 |

七、散逸標本の蒐集

我軍の占領以後南京の博物館及び研究所は、難民の爲掠略せられ、その標本類は泥棒市場に流出しつゝありたり、前回の南京滯在中その若干を本塾大學考古學教室の爲に蒐集したるが、今回の南京調査に當り〇〇〇〇の命により博物館の番號を附し明瞭に博物館標本と思はれるものを主として約五十三點を購入し、之を歴史語言研究所二階の一室に陳列し置きたり。

之を要するに今回整理せる標本類は東洋歴史の研究に重要なる資料にして、今後我軍の手により充分保管せられ、我學界の爲に利用に供する必要があるものなり、今回の調査に當り、軍並びに上海自然科學研究所各位の御援助は感謝に堪えざる所であり、殊に南京に於て不歸の客となられたる所長新城博士の英靈に對しては衷心より哀悼の意を表するものなり。以上